UDLM

12

vol.326

December 31st
2022

「研究室」をめざして

p.2-3　理想の「研究室」を描く
p.4　屋外空間の時節の装い

▲研究棟から撮った夕雲

URBAN DESIGN LAB. MAGAZINE

理想の「研究室」を描く

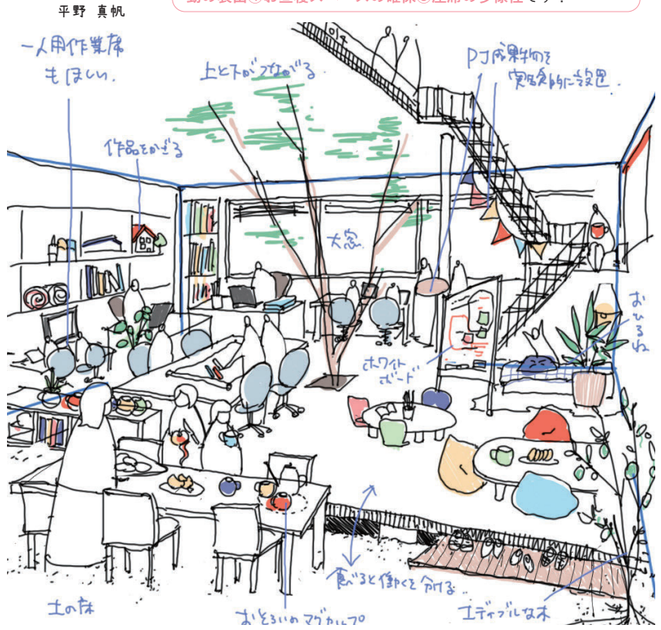
院生生活の間、研究やプロジェクトなどの様々な活動の拠点となる「研究室」。都市デザイン研究室では 3 年ぶりに研究室の大掃除を実施し、一部机の配置なども新しいレイアウトに変更された。研究やプロジェクト活動を行う上でより良い環境が望まれるが、理想的な「研究室」とは一体どのような環境なのだろうか。そこで今月号では、M1 メンバーにそれぞれ理想の「研究室」をスケッチして描いてもらった。

現在の都市デザイン研究室（906 号室）

大きな木のある研究室

平野 真帆

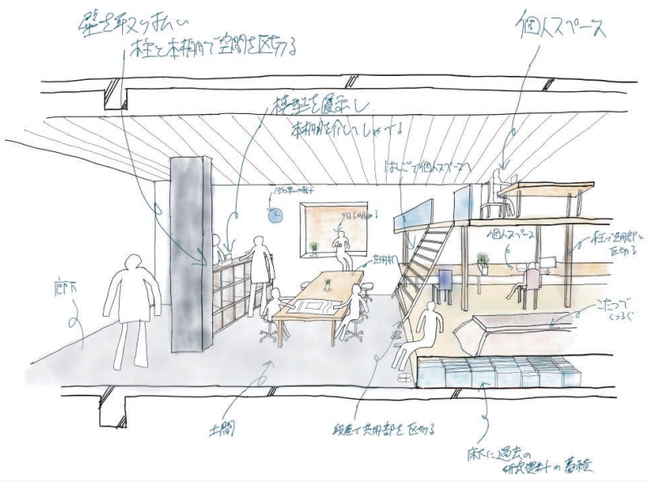
今 906 に要求したいわがままを全部叶えて真ん中に木を生やしてみました。コンセプトは①食職分離②上下階をつなぐ③創作活動の表出④お昼寝スペースの確保⑤座席の多様性です！



壁のない研究室

永井 鷹一郎

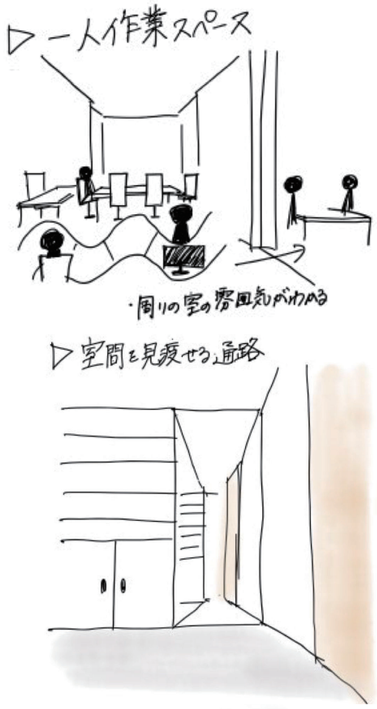
研究室外の人も多く訪れるので、壁を取り払って柱と本棚によって空間を区切り訪れやすい研究室を目指した。一方で個人スペースとは段差と柱等を用いて区切り集中できる環境を担保した。

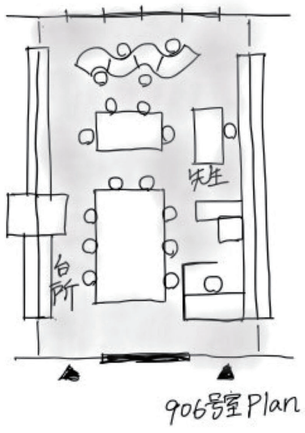


人の気配が心地良くする研究室

高野 楓己

扉を無くし室間を貫く動線を作ることで、他研究室の学生や先生との接点を増やす。906 号室ではどの席でも常に顔は見えるが目線は合わない配置とする。一人でも何となく人の気配のする、安心できる居場所になる。





906号室Plan

906 ガーデン

長谷川 帆奈

自然に触れてリフレッシュしたくても 9 階から 1 階まで下りるのはなかなか腰が重いので、だったらいっそ、906 自体をもっと緑あふれる研究室にしてしまおう！と思い、緑に包まれる研究室にしてみました。

個人ワークソファ

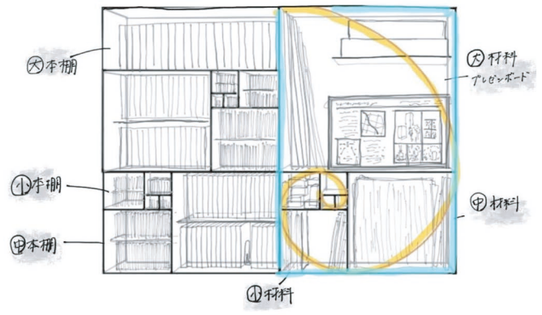
橘 俊輔

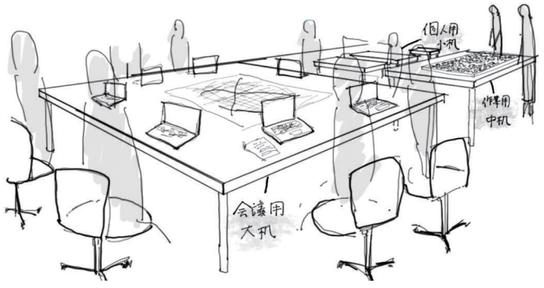
現在の研究室は複数人で議論をする環境は整っているが、集中する個人作業には雑音が多くあまり良い環境とは言えないので、リラックスして集中できるソファを部屋の隅に置くことを考えた。

黄金比の整理法

森屋 友佑

棚と机の配置に黄金比を導入することで、それぞれのニーズを整理する。棚は材料や本を大きさで整理して探しやすく、机は使う人数ごとに整理して空間を分け、それらを黄金比に配置して美しいレイアウトにする。





デザ研ハンモック

佐橋 慶祐

今の研究室にはくつろげる環境がない。理想的なリラックスできる空間として研究室の棚や壁にハンモックをかけることを考えた。ハンモックの半重力空間がもたらす心地よさがあなたのデザ研ライフをより豊かにしてくれるだろう。

おわりに

「研究室」とは何か？それは単に研究する場所ではないようだ。
材料や本は整理されるべきであり、集中する場所とリラックスする場所は分けられる必要があるようである。一方でそれらは混在し、かつ外部との交流が望まれている。自然が取り入れられることは、必須条件となりうる。それら要求が満たされてなお空間は美しくある必要があるらしい。
それでは、あなたの理想的な「研究室」はどのようなものだろうか？

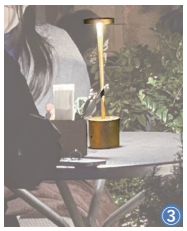
屋外空間の時節の装い

まちを歩いていると、店舗に併設されたテラス席にこたつが付けられていることに気がついた。寒かったのにもかかわらず多くの人々に利用されていた。12 月は寒さに加え、クリスマスや年越しといった歳時が重なる時期である。この時節に、屋内からはみ出した空間がどのように着飾られ、魅力的な空間になっているのだろうか。屋外空間の活用があると思われる様々な地域を巡ってみた。

巡った地域

時節の装い

▶暗さや寒さに対処していると考えられる設え


照明

日が暮れるのが早いからか

膝かけ

こたつ

こたつがある席の方が、無い席より利用されている印象

ビニールシート

ヒーター

床の断熱シート

風よけや、断熱効果？

▶歳時を感じる設え

クリスマスらしい飾り付け

年末年始の飾り付けも気になるところ

▶歳時を感じるアクティビティ

クリスマスマーケットが開催され、テーブルで飲食をしている

平日から多くの人がお酒を飲んでいる

忘年会シーズンだからだろうか

暖かさを感じられる工夫がある空間に、人が多く集まるようだ。テラス席で一人過ごすのも、2022 年を振り返り話に花を咲かせるのも良いかもしれない。

COLUMN

POSTSCRIPT

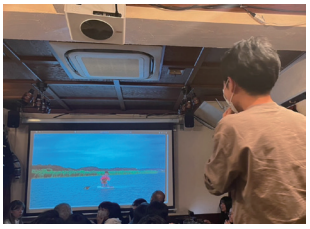
研究室メンバーに理想の“研究室”を描いてもらった。ハンモックや家具のことを考えていたり、室全体のことを考えていたり、それぞれで考えるスケール感が異なっていて興味深かった。そして、そこに求められているものが単に研究するための空間ではない点に“研究室”の奥深さを感じた。“研究室”とは何か。皆さんも理想の研究室を考えながら誌面を楽しんでいただければ幸いである。(M1 永井)

WEB MAGAZINE

続きは都市デザイン研究室 HP で！
https://ud.t.u tokyo.ac.jp/ja/blog/

ルンビニ PJ 復活！

ネパール・ルンビニの PJ が復活し、九州大学のチームと合わせ 7 人で、現地調査･報告会を行ってきました。ブッダの生誕地とされる仏教聖地の周辺で、インフラ・建築に関するプランニングを行いました。(M1 森屋)



「今年の一枚」開催！

年末の恒例行事「今年の一枚」を開催しました！学部生から博士課程の方々、留学生や先生など 28 名が参加し、今年の心が動いた出来事を写真付きでスピーチ。思い出話に花が咲いた一夜でした。(M1 平野)

BOOK OF THE MONTH

自然な建築

隈研吾
岩波新書
2008

推薦者
M1 橘

コンクリートの時代と呼ばれた 20 世紀に、建築と素材の関係性は断ち切られ「自然さ」が失われてきた。タウトやライトから方法論を読み解き、筆者の建築家としての経験の中で、石、木、竹などの素材でいかに「自然さ」を残すか、数々の試みが語られている。

発行：東京大学都市デザイン研究室マガジン編集部
神谷南帆・合田智揮・杉本莉菜・若松凪人・渡邉大祐
伊藤純也・佐橋慶祐・高野楓己・橘俊輔・永井鷹一郎・長谷川帆奈・平野真帆・森屋友佑
発行日：2022 年 12 月 31 日